

あなたが創る 第28回 兵庫県学童保育研究集会

集まる・つなげる・育ち合う



ほいく誌の読み
合わせもします

主催

兵庫県学童保育連絡協議会
兵庫県学童保育指導員会

後援

兵庫県・神戸市
芦屋市教育委員会

全体会(10:00~12:00)

基調報告 兵庫県連協会長 平野良徳
記念講演 立命館大学講師 森川紘一先生
ピアノ演奏 坂部友淳

記念講演

森川紘一先生

立命館大学講師

子どもの心に寄り添う子育て

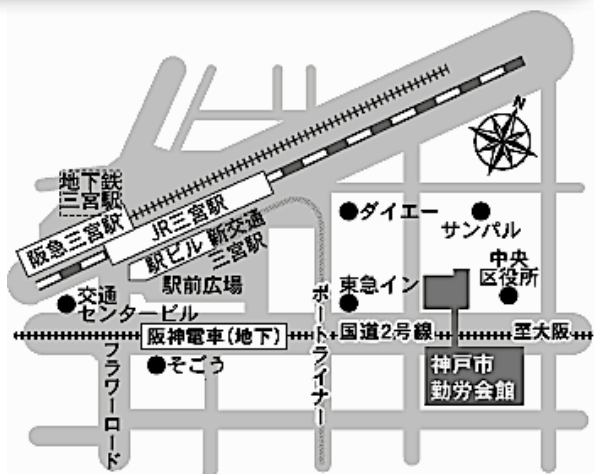
=豊かな心と確かな学力・思春期につまづかないために=

開催

2012年9月9日(日)

会場

神戸市勤労会館



分科会(13:00~16:00)

各分科会の案内は裏面をご覧ください。

■参加費 500円

◇但し、県連協へ加盟している市町連協の会員は無料

■保育 無料

◇3歳以上 ◇保育希望のある方は、当日の受付で申し込んで下さい。◇昼の休憩中は、保育をしません。

◇保育時間 10:00-12:00/13:00-16:00 ◇昼食については、親が責任をもって食べさせてください。

◇保育中の水分補給(お茶など)をご用意ください。

■神戸市勤労会館

◇神戸市中央区雲井通5-1-2

◇アクセス 市営地下鉄・JR・阪急・阪神・ポートライナーの「三宮駅」から東へ徒歩5分

お問い合わせ/参加申し込み連絡先

第28回兵庫県学童保育研究集会 実行委員会

TEL/FAX 078 360 2728 E-mail hyogo.gakudo@gmail.com

県連協事務所 〒650-0022 神戸市中央区元町通6-7-9 秋毎ビル3F

分科会の案内

第1分科会

働きながらの子育て ～学童保育の役割～

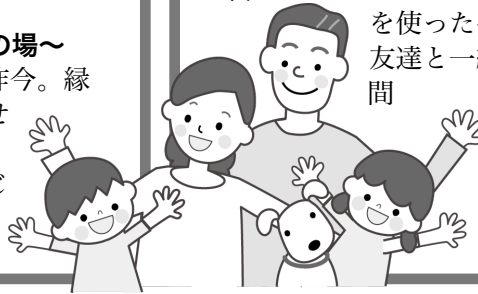
地域によってさまざまな施策の下学童保育は日々営まれています。安心して働くために、何を大切にするのか考え交流したいと思います。学童保育を通して子育ての輪を広げていきましょう。

第2分科会

みんなで作る父母会と行事

～助け合い・育ち合い・語り合いの場～

人間関係が希薄になってきている昨今。绿あつて同じ学童に子ども達を通わせる事になった親同士が学童保育を考え、より良くしていく運動を通じて、父母会の重要性と運営方法を一緒に研究していきます。



第6分科会

科学実験教室

おおむね5歳児以上の子ども対象

たのしい科学実験や、おもちゃ作りを通じて、子育てを考えるお父さんをサポートする「父親サポート関西」が学童保育研究集会バージョンで出前に来ます。たのしい科学実験では難しい理屈や専門知識はさておき、「予想を立てて実験し、真理を確かめてみよう！」の実験スタイルで、子どもたちは目の前で起こる意外な現象、科学の面白さにワクワクどきどきです。身近な素材

を使った手作りおもちゃでは、他のお友達と一緒に、同じ目的で取り組む空間

は、ご家庭や学校とは違った雰囲気があり、モノを作る楽しみ・楽しみ方が子どもたちの心に強く残ります。

第4分科会

事例報告から学び交流する

指導員向け

指導員自らが、悩んでいる事例・困難な事例を出し合い、皆で考え合うことを通して明日からの保育に生かします。



第5分科会

室内遊び ～あそびの世界を広げよう～

指導員向け

室内遊びといわれれば何を思い浮かべますか？ボードゲーム、カードゲーム、ビデオを見る・・・もいいですが、身近なもので友達と一緒に楽しめる遊びはたくさんあります。今回は明日から保育にいかせる遊びをたくさん用意しています。みんなで実際に遊んであそびの世界をひろげましょう。



第7分科会

学童保育と学校

「学童保育の子は忘れ物が多い。」「宿題ができていない。」などと言われた経験はありませんか？分厚くなった教科書、難しい勉強、学童に行ってほしいようぶ？と悩んでおられませんか？でも、だいじようぶ。学童っ子たちは、友だちと上手につき合うことを学んで思春期への準備をしているのです。【学校、学童、家庭の三重生活を上手にやりくりするコツ】【学校（先生）とのつきあい方】【「見えない学力」のなかみ】について考えていきましょう。



第3分科会

公的責任と行政施策

2006年9月の管理委託制度からの移行期限を前に、多くの自治体が同年4月から指定管理者制度を導入した。利便性の向上を求める住民に対し、自治体は経費削減、職責の軽減を進め、制度を利用し営利を求める企業が参入してきた。国は多様な利用者ニーズに応えるべく基準を策定せず責任の所在を利用者に据え換えようとしている。社会保障の公的責任をどのように地方自治体に認めさせるか。

第8分科会

しょうがい児の放課後

学童保育はしょうがいのある子どもをどのように受け止めればよいのでしょうか？今、私たちは『しょうがい』について向き合い、知る必要があります。しょうがいのある子どもたちとふれあっている特別支援学校の先生のお話を聞いて、みんなで学び合しましょう。

